

■区民意見

No	意見
1	<p>これからの福祉のあり方 この福祉の問題は多様でこれからの時代に決して、逃げて通る事の出来ない問題と思います。 これからの社会は、核家族化が進み、近い将来に1人世帯4割近くになる事も考えられるので、これからは地域の助け合いが必要になる事と思います。 そこで、行政ではなかなか対応が難しい問題などを、例えば問題が担当課から少し外れる事がありますと、なかなか解決出来ず時間を要します。 また相談事は原則として行政に出向いて説明・お伺いのスタイルなので、これからは地域に何でも相談出来る場所（出来れば出張相談）が必要になるのではないのでしょうか？ その場所によっちゃん家は最適と思います。 それは、よっちゃん家のメンバーには地域の人々の情報を一番ご存知の民生委員の方々为数多くおられますので、地域の人々のお困りごとなどを吸い上げて、みんなの力添えで解決する。 数多くは出来ないと思いますが、中身の濃い対応ができると思います。</p> <p>ひとりみんなのために みんなはひとりのために （自分でできる事でみんなの手助け） （組織は皆の英知で一人を救う）</p>
2	<p>よっちゃん家のボランティア活動に参加して 近年、地域社会は社会環境の変化により核家族化が進み、人々の結びつきが希薄になっているのが現状です。私たちの子どもの頃は、地域の中に大人と子どもが健在しているおじさん、お婆さんの居る町でした。そのような中で人と人との交わりの中、又、遊びの中でさまざまな体験をする事が心の成長に繋がったのではないかと思います。 砂町よっちゃん家は「多世代交流の里」として、住民主体の住宅開放型の居場所で、子どもから高齢者まで多世代が集える交流の拠点でもあります。このように、居場所づくり中で「子どもの居場所」、「高齢者の居場所」と区切るのではなくおじさん、お婆さんのボランティアを含めた異年齢の居場所があっても良いのではないかと思います。よっちゃん家を拠点として輪が広がる事を期待します。 今、コロナ禍の中で高齢者の皆さんは外出を自粛した生活を送っている方が多いと思いますが、このままでは心配が尽きません。何とか現状を乗り切らなければなりません、一日も早く、新型コロナウイルスの感染が無くなり安心して外出できる日々が戻って来ることを願っています。</p> <p>【運営に当たって】 手作りのおもちゃを作ったり、家の壊れた部分を修繕したり等、スタッフの好意には感銘を受けました。これを始めとして、ボランティアとして取り組んでいるスタッフの皆さんの好意により成り立っています。そして、地域主体による見守り活動の体制を構築するうえに於いては行政の係わりは不可欠です。 子ども一人ひとりの安全のために、高齢者の安心のためにも保険が必要です。今後、運営していくうえで、諸事情に応じての行政からの支援をお願いしたいと存じます。宜しくお願いします。</p>
3	<p>「地域共生社会」が、地域でしっかり内容豊かに実現できるようにして欲しい、と期待は持っています。 ただし、区報を拝見した限りではイメージが作りにくい。</p> <p><地域での困りごとは> 1. 大きな団地に住んでいますが、子育てしているうちは子どもを通じてのつながりができやすかった。しかし、今は天候のこと以外に話しかけても反応しない人が多い。 昨年末に、高齢の男性兄弟の餓死事件があり、身近だったので余計にショックだった。誰ともつながりがなく死後1カ月以上経っていて臭気でやっと気づくという結果に、「地域」として困り事のある世帯や引きこもり・独居の高齢者層などへ、団地が特に多い江東区の場合の困難さに考えあぐねている。 戸建てであっても、もちろんゴミ屋敷や、猫・犬屋敷もあるので、近所で悩まされる事例もよく聞きますが、少し様子が見えやすい。ところが、団地の中ではゴミ捨てもシュート式で人目につかないままという所もあり、中が全く見えない。 江東区からささやかな防災グッズ（卓上ミニ消火器はよいかも！？）の宅配や乳酸菌飲料配布、団地管理事務所や自治会のフロアごとに全戸訪問活動（アンケート・記念品付）があると、地域の人も動きやすいと思う。 男性は群れることを嫌い難しいけれど、気軽に集まるカフェがあって、無料で囲碁・将棋セットが使えるといいなあ、など調べてみたらやっていました。でも多くて月に1～2回。場所は団地集会室のため、入りにくいし集まる人も支援する人も閉鎖的。 地域は、働き盛りの年代の参加が期待しにくく、ボランティアは高齢の人に偏っています。高齢者の知恵と経験を生かすのは良いことです。ただし、リスク考慮が必要です。</p> <p>2. <地域でボランティアとして動くとき> こども会はもはや地域にはなくなってしまった。辛うじて、お祭りの際に活動するのみ。今やこどもたちも、地域の中でのつながり希薄。 引きこもりや高齢者の場合、警戒して心を閉ざしてしまうケースがあるので、急かさず、関わり手もこころ変わらず、グループで継続的なアプローチが重要と考えます。</p> <p>3. <地域共生社会の条件> 色々疑問が出てきました。 ① 区役所は何をやるのでしょうか？ ② どんな部署がどのように地域と関わるのでしょうか？</p>

No	意見
	<p>③ 地域と言っても、乳幼児が障がいを持つ人、高齢者まで課題の対処も違うので、分野別に窓口をつくるのでしょうか？</p> <p>④ それとも、地域包括支援センターになるのでしょうか？どうなのでしょう？</p> <p>⑤ 困りごとを抱える人への支援は、専門家（職）が中心にいないと解決できないです。特に、虐待・DV、法律的な知識や保健衛生・福祉も、より専門機関につなげるためのうえでも間違いでは済まないことです。</p> <p>⑥ 専門家を各分野で複数常駐させてほしいです。</p> <p>⑦ オープンな場所として設置される部分と、内容によっては、最初から個室的なスペースも必要です。（虐待やDVは特に）どのように場所を確保していくのでしょうか。</p> <p>⑧ 支援者も、専門職で指導できる人と、ボランティアは区別の必要があると考えます。重要な個人情報を抱えての支援は、ボランティアでは相当限界があるためです。ボランティアにも交通費＋の謝礼が必要ですね。</p> <p>⑨ 地域の中で中核となるためには、小学校区が望ましいと思いますが、当面は中学校区に中核となる施設が必要と考えます。</p> <p>⑩ これらに要する予算については、確保されますよね。</p> <p>⑪ くまなく目が行き届くようにしつつ、温かさのこもった運営を期待します。</p> <p>そのためには、この「地域福祉計画」の組織・体制・予算・専門家配置と既存の組織の連携など、区民にわかりやすいように、しかも具体的に示す内容でプラン化してください。 また、来年末に素案が提示され、パブリックコメントが募集されますのを心待ちにしております。</p>
4	<p>1. 江東区民として、行政の施策（ほどこすべき対策）ならびに実施計画案の展望を～期待している区民のひとりです。</p> <p>☆「社会保障、2040年問題を展望して～」</p> <p>「福祉」は「社会制度」「仕組み」として確立してゆかなければ、人として孤立孤独、不安恐れまで取り除くひとつとして波及しないと考えます。</p> <p>☆厚生労働省の基本方針を読みましても、地域包括、認知症等のフォロー構築は進んできましたが～。</p> <p>☆「この世を生きて死にゆく人々～へのフォロー支援」</p> <p>は、？？？</p> <p>2. 人として「終わり良ければ全てよし」～人生の総括へのクロージング。</p> <p>☆2040年問題、団塊ジュニアが65才を超える人口構成です。少子高齢化、老々居住、単身居住。</p> <p>☆ラストに派生する課題</p> <p>「身元保証」というネックです。</p> <p>☆身内、親族、不仲な身内</p> <p>依頼という形がとれない方々が多量死時代にふえます。</p> <p>☆老いへの弱りのプロセス途上</p> <p>ストレス、うつ病、困窮連鎖</p> <p>☆多くの人が、お金では解決できない</p> <p>3. ☆「身元保証」のリアルで、右往左往する前に、国、都、区のような公的行政が支援制度として立案、制度化（例えば有料でも）して、人々の受け皿として創設して欲しいと望んでいます。</p> <p>☆多量死時代に「社会福祉」という、「社会人々への愛情」が</p> <p>☆「人心の安らぎ保善」としてできればと願うのです。</p> <p>☆民間、社協では、内容のバラツキ</p> <p>持続、継続力に不安があります。</p> <p>4. 区役所内に窓口一本化（身元保証のみだけではなく）</p> <p>☆人の問題窓口総括</p> <p>「よろず窓口」を開き</p> <p>☆（国も河野大臣が「たてわり」110番をつくりました）</p> <p>☆誰もが、コンタクトできると広報展開し、</p> <p>☆来所者には課題の適切マッチングとして、部門につながります。</p> <p>☆適切な部門にたどりつけば問題の9割は先が見えます。</p> <p>☆行政展望力として</p> <p>2040年問題への2020年代からの大いなる助走です。</p> <p>5. 問題を「もぐらたたき的に処理」してゆくことも、進めなければなりません、</p> <p>☆予測できる事は「信」を積み重ねて欲しいと考えます。</p>

No	意見
	<p>☆広く聴聞という行政の姿勢を 今後の区民のために引き続きよろしくおねがい致します 2020. 10. 1</p> <p>6. 尚、ひとつの見解として、 ①認知症カフェでのボランティア経験から～ 利用者さんがカフェもいいけど「地域の囲いこみ」のようで、カフェとか「通所B」は2 駅か3 駅離れた所が ☆気楽で良いとお話ししていました。これは盲点です。 ☆人の真理は、「知られたくない」も大きなポイントです ②ホスピス病棟のボランティアも近隣の人だと、個人情報も広がって、こじれた人間関係が発生した困難事例があったそうです。 ☆地域包括の盲点が問題、ネックということも気をつけるべきことだと察しました。</p> <p>【新聞切り抜き】 2020. 10. 1 社協ではなく民間でもなく 国、都、区、公的な機関が一番。だが～</p> <p>入院 連帯保証人 つくづく今後を不安におもいます。 何か、公的な構築が社会福祉としてできないものでしょうか！ 2040 年問題への展望ができていいる今、制度としての構築が望み。</p>
5	<p>介護ディサービスへのひと言</p> <p>今日この頃は「コロナ」でいろいろな事が中止となって居りますが、楽しみにして行くディサービスは、目的もなく一日ポーッとしてお弁当を食べて帰るのは、何とも味気ない一日ですね。もう少し頭脳運動をして楽しく過ごしたいですね。 例えばレベル段階を作り、キッズ程度から始める英会話、絵手紙教室、パソコン教室とか、専門学生（介護）の実習の一貫としてこれから介護のあり方を充実させては如何ですか</p>
6	<p>江東区地域福祉計画策定につきまして</p> <p>テーマ 高齢者の通いの場の創出、多世代交流の地域活性化のための教育機関との連携・協働</p> <p>地域在住高齢者の健康寿命の延伸、介護予防の推進のため、地域包括ケア計画の一つには、徒歩圏内に通いの場を増やすことが挙げられております。しかし、身近に通いの場が見つからず、区の高齢福祉課や地域包括支援センターの方も苦勞されているとうかがったことがございます。 そこで、医療福祉系の大学や専門学校との連携・協働により、キャンパス内に通いの場を作ってみてはいかがでしょうか。教職員や学生も運営に関わり、高齢者との相互交流が学びの場となる可能性もございます。たとえば、認知症カフェを大学構内に開設して、学校教職員が地域住民や学生のボランティアと協力して運営する例もあるようです（東北福祉大学）。 また、様々な経験や技能をもつ高齢者が児童の放課後の活動支援に参加することは高齢者自身の健康増進や介護予防につながり、児童にとっては社会的学習や対人技能、生活力を身につける機会を提供することになります。また、保護者にとっては子育て支援につながり、高齢者と児童の双方に良い影響をもたらすものと思われまます。 たとえば、学童保育の対象児童と高齢者ボランティアによる放課後子ども教室などの制度を活用した遊びや学習を支援する多世代交流の場や、子ども食堂+大人食堂などの運営による生活支援の可能性もあるかと存じます。以上、ご参考になれば幸いです。</p>
7	<p>9月 21 日号区報を拝見し、私の地域における親子支援事業の体験から、日頃感じていることについて意見を述べさせていただきます。 日頃区行政に置かれましては区民の福祉と生活向上のために、ご努力されておられることに敬意を表します。区報を拝見し、○3、4 の項目について述べさせていただきます。</p> <p>○3 について 「おもちゃのおうちタッチあそびの広場」は、現在北砂 5 丁目の地域で活動しています。利用者の保護者の皆様からの日ごろの子育てについての感想から既存の「子ども家庭支援センター」についての感想をうかがう事が多いです。</p>

No	意見
	<p>①コロナ過で以前より予約が取りづらく、特にひと時保育は申し込んでもいつ利用できるかわからない状況があります。</p> <p>②子ども同士のトラブルに関わることに神経を使い、リフレッシュや子育ての不安感を解消のため利用するがとても疲れて日常的な利用は難しい。</p> <p>③ベビーカーや自転車で身近に利用できる場所が見当たらない</p> <p>④第2子が誕生すると、利用するのが難しく足が遠のく。</p> <p>以上が利用している保護者の声です、もちろんそれ以上に感謝の言葉もたくさんいただいています。たしかに子育ての孤立からくる虐待問題は身近で起きています。「みずべ」や「児童館」での出会いが孤立感から解放される側面は大きいですし、虐待予防につながります。</p> <p>私が、自宅開放型で「おもちゃのおうちタッチあそびの広場」を開設したのは、親子での安心の居場所づくりを求めている保護者支援です。タッチあそびの広場を利用して頂いている保護者の方から、「ここに来ると子どもの事で安心して話せる」「心配事が解消される」「リフレッシュできます」「また利用したくなる」など喜ばれ、まずおもちゃの多さに驚かれます。</p> <p>今後、区内に「水辺」の増設だけでなくこのような地域の中で小学校区に気軽に立ち寄り、保護者の方が子育てのよりどころになる居場所が出来れば、現在の「水辺」が抱えている課題も解決に向かうと考えます。そのために担い手の育成と財政的援助額の課題と考えています。</p> <p>○4について</p> <p>居場所の整備について、地域の中で暮らしていると空き家になった戸建て住宅や、利用度が多くない地区集会場、公的施設の廃止(区立幼稚園)などがあります。シャッター通り商店街など街が衰退していく様子もあります。有名な砂町商店街も例外ではありません。このような現状を区は十分認識されているとは思いますが、有効な施策はこれからという事でしょうか？</p> <p>人づくりは地域に、クラスに、人々の安心して暮らす居場所があってこそ成り立つと考えます。赤ちゃんから高齢者まで包括的に包み込む穏やかな環境は、地域に点在する既存施設の利活用を実行する事で可能となるでしょう。</p> <p>その提供にこたえられる人材の育成は急務と言えます、また財政的バックアップ、しっかりとした条例の下、制度整備も必要になると思います。国は「自助・共助・公助」の方針を掲げていますが、地方自治体がこれに追随すれば事態はさらに深刻にならざるを得ません。私はしっかりとした[公助]の支えがあってこそ、「共助・自助」が生かされると考え、江東区はそういう区になって欲しいと願っています。</p> <p>以上、私の私見を述べさせていただきました。</p>
8	<p>江東区地域福祉計画策定に向けて こうとう区報 9月2日号掲載の地域福祉計画策定に向けての意見書募集につきまして、日頃から考えていることを書かせていただきます。</p> <p>私は現在、江東区総合事業B「ご近所ミニデイ」をスタッフ5人で運営し、長寿応援課の皆さまに大変お世話になっております。サロンは4年目になりましたおかげさまで、利用者の皆さまと楽しく3時間を過ごしています。コロナ禍で4か月近く休みましたが、その間にははがきでのご様子伺い、月に2回程度、自宅でできる簡単な体操やぬり絵、まちがい探し、音読用資料、歌など送って元気を出していただくよう努めてきました。</p> <p>再開を待ちわびていただき、本当にうれしかったです。再開後は、URと江東区のご配慮で広い集会所をお借りでき、毎回15人から16人の方が参加してくれています。私たちスタッフもミニデイがマンネリ化しないよう、いろいろ考え計画しながら運営しています。</p> <p>地域福祉計画体系については、ずっと以前から行政が縦割りではなく横のつながりこそが地域で求められていることなのでは、と考えていましたので、大変うれしく思います。</p> <p>私の思いです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 例えば、行政で働いている専門職種はどのように関わるとでしょうか • タワーマンションの方たちも参加するのでしょうか • 区役所はどのように連携するのでしょうか。例えばどのようなことがありますか。以前のような総合相談窓口みたいなものを作るのでしょうか。役所の分野みたいなもの仕組みが変わるのでしょうか。三郷市吉川では、条例で総合福祉の窓口を作ったと聞きます。そのようなイメージでしょうか。 • 専門職の方々はどうになりますか。 • 長寿サポートセンターは区内21か所にありますが、とても区内くまなくとはいかないと思います。1センターの規模を大きくして、丁目ごとの人員配置をするぐらいでないと。または、もっと細かく地域割りを。長寿サポーセンターは高齢者、障がい者センターは障がい者・子ども子育てセンターは子ども子育て支援となっているのかと思いますが、各地域ごとに3つが一緒になったセンターはつくれないのでしょうか。いろいろな専門性を持ったスタッフが相談を多面的に受け止めて、虐待などのより良い解決につながるのではないのでしょうか。家族は子どもから高齢者・障がい者までいますから。縦割りでなく1か所で相談できると思います。 • 保健所は大変な仕事を担い、本当に大切な機関だと思います。私は相談員として障害者の方のサービス計画等を立てさせていただいていますが、精神障害の方全員に定期的に面談していただきたいと思っています。地域割りが大きすぎるとは思いませんか。もっと細かい地域割りで地域割をしてほしいです。 • 子どもたちの声も聞いていただけませんか。子供たちの声こそ未来への輝きではないでしょうか。 • 学校を軸にした計画はありますか。 • 砂町銀座地区名の地域福祉計画はありますか。地域福祉計画が活性化するのではないのでしょうか。 • 介護保険料や国民健康保険料が安くなれば、地域福祉の充実や多くの区民が救済されるのではないのでしょうか。 • 公害患者さんの自己負担助成を増やしてほしいです。都に挙げていただきたいです。 • 生活保護の方々の訪問や援助などワーカーを増やして対応できるようになりませんか。 • 公共施設や区民館、地区集会所が広く区民が使いやすいよう施設使用料が軽減されるよう工夫がないのでしょうか。

No	意見
	<p>・水害時などの災害時、福祉避難所を増やし対応ができることが可能でしょうか。よろしくをお願いします。</p>
9	<p>手話通訳さん付きで地域サポーター講習を受け、雑巾ボランティアなら私でもできると手縫いをしていると、様々な講習を受けたけど気楽に生かされる場所がないな～？区役所、社会福祉協議会、長寿サポートセンター、自悠大学等で地域福祉的な講習があるけど、笛吹けど踊らず傾向があるな。それらをよりよくするためのアイデア・企画を何人かに聞いたけど、どうせ言ったところでと終わってしまったな。この空回りを少しでも防ぐ方向…そうだと定年退職者の活躍のお願いの方法を少し変えたらと雑巾の手縫いをしながら思いつき、そのような何とかって区報に合ったようなと新聞入れから探して、今書いているところです。</p> <p>成人の日、敬老の日があるように、「セカンドライフの日」？、「第二の人生の出発の日」？があるとよいですね。その年に定年、セカンドライフになった方に招待状を送り、長寿サポーター地域ごとに着席し、初年度は定年セカンドライフ（??）おめでとうございます。誰でもが社会と繋がってほしい、人から必要とされたい。人の役に立ちたい気持ちが実現できたらより充実した人生が送れるのではないのでしょうか？あなた方々の知識の積み重ね、経験の積み重ねを生かして活躍しませんか。</p> <p>初年度ですから、今日出席された方全員が発起人です。</p> <p>この式が終わった後に各地域長寿サポーターまたは町会ごとに小会場で楽しく食事をしながら、各地域の特徴を生かした組織づくり、ハローワーク、シルバー人材グループ、ボランティアグループ、趣味グループ、健康長寿グループに分かれるのでしょうか??</p> <p>健康長寿グループの基本は、元介護職員、運動指導員、リハビリ関係者、江東区の介護予防リーダー、元体育教師、保健師、介護予防指導士等が中心となって、江東区生き粋体操、NHK ラジオ体操、ノウトレ体操、ペーパーノウトレが中心に活躍する（追加 歩け歩け散歩クラブ）</p> <p>次に活躍するグループは、ボランティアグループ、前職を生かした栄養士さん、調理師さん等で、子供食堂、要介護者の給食、配達、8050 サポーター、ダブルケアサポーター、老々介護サポーターの講習を受けサポートする。各地域の長寿サポーター、社会福祉協議会、子ども家庭支援センター、町会、自治会役員と常々打ち合わせをし、何が必要でどうすればよいのか体制づくり。</p> <p>趣味グループ、これ大事です。せっかく入会した方々の落ちこぼれない体制づくりも大事。</p> <p>次年度から「セカンドライフの日」??「第二の人生出発の日」??は、各地域活動報告、今後の計画を盛り込む、趣味グループのイベントも盛り込むアイデアはいかがですか？</p>
10	<p>①個人・家庭で抱える福祉の課題、または、地域や江東区の福祉の問題点について ②その課題や問題点の改善案について</p> <p>●江東区内全体を巡回するコミュニティバスがないので不便 コミュニティバスが江東区では臨海地域にしか走ってないと思います。都営バスは多いですが、高齢者や障がい者は何回も乗り換えが大変ですし、バリアフリーではないバスも多いので、乗るのに苦労するという言葉を聞きます。南北の行き来も大変ですし、江東区の福祉会館、スポーツ会館、図書館など立地が交通に不便な場所が多いと思います。行きたいのに行けないという言葉をよく聞きます。コミュニティバスで、施設の前で乗降できたら、施設の利用者も増え、区民の健康にもよいのかと思います。ご検討よろしくお願ひいたします。</p> <p>●インクルーシブ公園がない 世田谷区&豊島区でいろんな障がいの子供達が遊べるインクルーシブ公園があります。江東区にもあったら、自然に障がいがある子もない子と一緒に遊べて、共生社会の一步になると思います。</p> <p>●多世代交流コミュニティカフェがあまりない。 子ども食堂は増えてきていますが、一人暮らしのお年寄りが安くご飯を食べることができるコミュニティカフェがあまりないと感じます。子供からお年寄りまで使えるカフェがたくさんあったら、地域の中で知り合いがたくさんできて暮らしやすくなって良いと思います。</p> <p>●社会福祉協議会をもっと機能させたほうが良いと思います。 ボランティア登録をして、社協会員にもなっていますが、社協からあまり情報が来ないです。 千代田区でもボランティア登録していますが、毎週ボランティアや講座の情報をメールで送ってきてくれますし、会報や講座情報などを郵送もしてくれます。今のコロナのときでも、講座をオンラインで開いたり、ボランティア専門のホームページをつくって、ボランティアしたいと思うとき、パッとみて、情報がわかるようになっています。 今、江東区のボランティア情報を見ようと思うと、月ごとにファイルを開かなければいけないし、月によって書いてあるボランティア、ないボランティアがあるので常に募集しているところにとっては増員できなくて困っている状況です。福祉活動でボランティアを集めるというのはとても大切なことです。ボランティアになりやすいよう、区役所や区民祭りなどでアピールしてその場で登録できるようにしたり、ボランティアになった人が情報収集しやすいよう考えてほしいと思います。</p> <p>●共生社会がまだできていないと思います。 共生社会を目指すには、子供の頃から障がいがある子もない子も、住んでいる地域で交流していくのが大切だと思います。現状は、就学相談によって、障がいがある子ない子が地域の学校か支援学校かに分けられています。わけるのではなく、重い障がいがある子でも地域の学校に通えるようになるのが良いと思います。 今、支援学校の子供が、地域の学校に行く復籍交流がありますが、直接交流ができていない子が少ないと聞きます。理由としては、学期に1回で慣れないところに行って、1時間しかいられないから、交流するまではできない。先生によっては、学科の授業と一緒に受けさせるので、授業についていけない。親と一緒についていかなければいけないので、働いている親だと行くことができない。高学年になるほど、難しいという意見を聞きます。年間の回数、時間を増やしたほうが良いと思いますし、楽しく地域で交流できるよう、区からも提案したり対策したりと考えていったほうが良いと思います。</p>

No	意見
	<p>●高齢者や障がい者向けのサービスがあまり認知されていない ボランティアしているご近所ミニデイで、ほとんどの人が家具転倒防止をつけてもらえることや、ちょこっとサービスで家事を手伝ってもらえることなど知らない人が多かったです。せっかくサービスがあっても認知されていなければ意味がないと思いました。いろんなサービスをもっとアピールしたほうが良いと思います。</p> <p>●区報を高齢者や障がい者にわかりやすいように改善したほうが良いと思います。 江東区の区報は表だけカラーで中は全部白黒です。高齢者情報も障がい者情報も、その他にまとめて書いてありますので、気づかない人が多いです。高齢者のコーナー、障がい者のコーナーを作って書いたほうがわかりやすいと思いますし、パッと見て目がいくように見出しだけでもカラーにしてほうが良いと思います。高齢者のコーナーは少し字を大きくしてあげると読みやすいと思います。区報は区民にとって情報を収集する大事なものです。改善よろしくお願ひいたします。</p> <p>●養育家庭募集のパンフに問い合わせしたらどんなことを聞かれるか項目を書いておいたほうが良いと思います。そのほうが、問い合わせしやすいと思います。</p> <p>●子供会や町内会の情報を誰にでもわかりやすいようにしてほしいなと思います。</p>
11	<p>①江東区における18歳未満で家族の介護を行うヤングケアラーの人数の把握、対策について。</p> <p>◎総務省 就業構造基本調査によると、介護をしている15～29歳が2012年17.7万人から2017年21.1万人に増加。14歳以下は含まれていない為、さらに多い可能性がある。 ◎大阪歯科大学、関西学院大学の「ヤングケアラーに関する共同研究」によると、高校生の20人に1人が介護をしており、ほぼ毎日介護しているが過半数以上とのこと。 ◎原因は晩婚化による高齢での初産増加、病気、障害を持ちながら子育て、三世帯同居率の低下、専業主婦世帯の減少、ひとり親家庭の増加 ◎ヤングケアラーは介護、家事、家族の世話、感情のサポート等、様々な困難を抱える。 →家庭内の大人がケアに使える時間、人数減少、障害、病気で保護者が働けない →経済的に介護サービス購入、施設入所等の選択肢を取ることが難しい、未成年者であるため行政が気づきにくい →地域のサポートが受けにくい、心身のバランス、経済的な負担、社会的に孤立、教育への影響で本来の力発揮できず →進学、就職に影響(家から通える、介護に理解)を及ぼし、可能性を奪う</p> <p>②</p> <p>◎日本で求められる支援策 相談できる体制、周囲が認知できる仕組み ○行政、NPO等の窓口 ○教師、支援者が連携できる仕組み ○ケアラー同士が交流できる場</p> <p>◎ヤングケアラー問題先進国 イギリス 90年代から実態調査、支援を実施、全国に支援団体設立、2014年「子供と家族に関する法律」制定 ◎埼玉県「ケアラー支援条例」全国初 2020.3月施行→今後、ケアラー、ヤングケアラーに関する実態調査実施、支援ニーズなどを探る→2020年度内を目標に「支援の基本方針と具体策をまとめた推進計画」を策定 ◎日本ケアラー連盟 ◎三菱UFJリサーチ&コンサルティング ヤングケアラーに関する調査研究報告書 2019.3 全国の市町村「要保護児童対策地域協議会」へのアンケート調査</p>
12	<p>①女性の妊娠から出産、育児、教育等、子育てについての現状、環境への理解、支援強化について 産後1年未満の死因1位である自殺、産後うつ、虐待、配偶者からのDV防止に向けた行政からの妊婦、母親のみならず配偶者、父親への理解、学習に対する更なる支援が必要ではないか。 現在、江東区での配偶者への妊娠、出産、育児、子育て環境についての学習は、人数や時間、場所が限定された両親学級等の実施、行政からの支援についての周知は文書等に留まっていると思われる。 また夫婦のみならず、その両親や地域の人々、支援員を始めとする行政関係者、企業代表者や管理職の理解、支援に繋げ、強化する必要があるのではないかと。 私は娘が未就園児の頃、道ですれ違ったり、同じ場にいた知らない高齢女性に、娘について一方的に誤解、叱責されたことがあり、慣れない育児、外出をする中で、怖い思いをしました。 他にも理解のない高齢者の言動に我慢するしかなかった母親もおり、残念です。そのような江東区における日常の子育て環境に疑問、不安を抱かせることがないような啓発もしていただきたい。</p> <p>②未経験である結婚から長く続く子育てまでの現状、課題、対策、行政等の支援内容、経験者及び支援者の経験談等を、わかりやすくイメージしやすい動画にしてはどうか。 区HPに常時掲載、区役所や保健所等関係機関でも映像を流す等、区民の誰もが転入者も、いつでも知り、学ぶ機会ができると良いように思う。</p>

No	意見
13	<p>意見募集には、「行政内部の各部署のつながり」「地域社会のつながり」「行政と地域のつながり」という3つの面でのつながりを作ることを目指した長期計画の「3つのつながりを実現するための設計図が地域福祉計画」であるとされています。</p> <p>『地域福祉計画』の肝は、安定的な「公助」の維持と「互助」体制の整備にあると思われます。</p> <p>区では、地域社会に関する事項について、町会・自治会は「地域振興部」、民生委員・児童委員、老人クラブ、地域包括支援センターは「福祉部」、子育て支援は「こども未来部」というように所掌が異なります。</p> <p>地域振興部の「町会・自治会長区政懇親会」、「町会・自治会活性化セミナー」、福祉部の「シニア世代活動あと押し事業」、「老人クラブ支援事業」、社会福祉協議会の「地域福祉サポーター養成講座」など、地域住民への社会参加啓発事業を実施しておりますが、互いに関連せず有機的に連携しているとは言いがたい状況があります。これらの事業や活動は、それぞれ「行政内部の各部署のつながり」が視えません。特にボランティア、地域での担い手の育成、NPOの活用の基準などに関しては、極めてあいまいです。</p> <p>『江東区基本構想』の「区民と区がともに責任を持って江東区をつくります」という基本理念を実現し、地域共生・地域の支え合いの体制を整備するには、より踏み込んだ施策が必要であると思われます。新たに策定する『地域福祉計画』では、次の点に留意する必要があると思われます。</p> <p>1. コミュニティの構築・強化を目指した「互助」体制の人材を育成する仕組みづくり</p> <p>地域住民、民生委員、児童委員、町会・自治会、ボランティア、NPOなどが連携して、地域におけるさまざまな課題（高齢者、障害者、児童に対する虐待への統一的な対応、家庭への支援、生活困窮者、社会的孤立状態にある方、判断能力に不安がある方の支援）に対応するには、多面的に対応できるコミュニティの構築・強化が不可欠です。</p> <p>町会・自治会の加入者の減少は多くの人々が認識しています。町会・自治会の再建に加えて新たな市民活動団体の創出を図る必要があります。単なるイベントや細切れのセミナーなどではなく、行政と区民相互が納得・合意した上で、継続的な人材育成の仕組みを策定する必要があります。</p> <p>2. 区における部をこえた事務分掌の組み替え、新規策定</p> <p>区には、安定的な「公助」を維持することが求められます。当然体系的で合理的な事務処理体制は大切です。しかし、地域住民を活用して互助体制を整備する場合、これに対応して担当部署（縦割り）と地域の横断的な活動との「橋渡し（翻訳機能）」に機構が必要となります。例えば、副区長直轄の調整機能部門を設置するなど、部をこえた事務分掌の組み替え、改定も必要になるかと思えます。</p> <p>また、各分野の上位に位置する『地域福祉計画』が策定されることになれば、『江東区高齢者地域包括ケア計画』、『江東区障害者計画』、『江東区こども・子育て支援事業計画』なども相互の関連に関する追加・見直しが必要になります。</p> <p>例えば、地域包括ケアシステムでは、124事業がリストアップされ、細かな行政サービスが提供されていますが、15部局・機関が事業を分け合って似たような内容の事業が羅列されています。これらの事業を整理・統合し、区職員と地域互助の担い手の綿密な連絡調整の上、「区がサービスを提供し区民はそのサービスを受ける」という構図を変えていくことも必要です。</p> <p>『江東区基本構想』に基づく『江東区長期計画』の下位に『江東区地域福祉計画』を位置づけて、分野ごとの計画を実効あるものとする、行政の縦割りと地域住民の活動範囲の互換性が確保されることについて期待しています。</p>
14	<p>微力ながら成年後見人になって困った人を助けたい一心で数年見習いをしましたが、区の敷居が高く素人の一般人が成年後見人など出来るわけがないとの意見が一部あり、何年も研修を重ねて頑張ってきたが断念し、再度フルタイムで働く道を選んで早7年経ちます。ただし、現在は改善されたことと思えます。</p> <p>経験して思ったことは、一人暮らしの後期高齢者が多く、日々どのようにしたらこの人達が最低限穏やかに暮らせるのか考えていましたが、その当時思った事は、区は損をしている。区民の方でも私のような積極的に福祉活動を応援する人を速やかに研修終了後は、成年後見人に任命することが必要かと思えます。区側から考えれば不安要素があるかと思うが、個人的にも区の職員より総務・経理・社会保険・不動産・損害保険と45年の経験、現在も健保組合（適用・給付・第三者行為等）で働いています。</p> <p>少しばかりですが、ヘルパーの資格も取り、実際に少しばかり活動したので、高齢者が困っていることは、ヘルパーでは出来ない金銭的な取り扱いです。預金通帳から生活費や入院費等の引き出しです。また、入院後の保証人、予防接種の了承とか色々あります。</p> <p>社協の生活支援員や預金通帳を預かるサービスなどは一般には知られていないように思います。普及させるには今の人数では足りないと思うので、社協の分室を作り、定年退職された方でも、経理、不動産、教職員、社会保険、損害保険や金融と様々な業種のエキスパートの方が大勢います。地域別に活動すれば、短時間で利用者のところへ行ける利点があり、ボランティア生活支援員として活動する輪を作るようにしてはどうでしょうか。</p> <p>私の周りには、少しなら手伝ってみようと思っている人は大勢います。これからは、区の福祉だけでは無理、限界があります。思い切って区民の福祉のアドバイザーを募って改善（新しい発想）することも必要かと思えます。実験の踏み台として、自ら公務員の方がボランティア休暇を何も災害の時ではなく、普段の日に積極的に取り、区民の要望、実情を知ることによって、自分たちの仕事を見直すことが出来ます。※匿名を希望</p>
15	<p>私は母が失語症なので、「失語症当事者家族」であり、東京都で認定された「失語症者向け意思疎通支援者」でもあります。</p> <p>失語症のある方は「話す」「読む」「書く」「聴いて理解する」といったコミュニケーションに障害があります。失語症者は思いを伝えられないもどかしさ、家族は思いを理解してあげられないと申し訳ない気持ちに毎日葛藤しています。</p> <p>失語症者は障害を負った部分を少しでも克服したいと、日々地道にリハビリに励んでいます。助けを求めたいけど、公的支援が無い状態なので、自助努力の中、生活しています。</p> <p>家族が協力的な失語症者は、社会生活において困っている事は少ないと推測します。何故なら、家族が自分では出来ない事を全て代わりにやってくれるから。</p> <p>しかし全ての失語症者に、頼れる存在、助けてくれる存在がいるわけではありません。困っている事、自分では出来ない事は諦めているのが現状です。</p> <p>しかしそれでは「自分らしく生きる」福祉の本質から外れていると考えます。</p> <p>失語症当事者家族は自分自身の事はさておき、失語症者を中心とした生活を送っています。自分自身の事、失語症者の事の両方を社会生活を送る上で、全ての事を実行しなければなりません。</p>

No	意見
	<p>家族だって人間です。体調を崩した時、仕事等でどうしても出来ない時があります。そんな時、公的機関に気軽に頼めるシステムがあればどんなに助かる事でしょう。失語症者、失語症当事者家族の両方を支える地域福祉の取り組みを切に願います。</p> <p>失語症者向け意思疎通支援者の立場からとしては、派遣制度の確立を願います。私は「江東・失語症のある方のコミュニケーションを豊かにする会」を立ち上げ、失語症への理解を広げ、派遣制度の実現を求め活動をしております。ある失語症当事者の方から「失語症を知ってもらおう事で何につながるのでしょうか？」という質問を受けました。この一言が失語症当事者の全てを語っている悲しい現状です。このような事を、失語症当事者に言わせてはいけません！と強く思いました。従って、一日でも早く、失語症当事者、当事者家族を支援したいと考えております。</p> <p>以上の内容を、地域福祉計画の一つとして取り組んでいただけるようお願い申し上げます。</p>
16	<p>1 失語症のある方が地域で当たり前に生活できるための現在の問題について</p> <p>私の夫は、8年前に、脳梗塞を患い、その後遺症として重度の失語症があります。ご承知の通り、失語症は、「聞いて理解すること」「読んで理解すること」「話すこと」「書くこと」という言語のすべての面での障害であります。「見えない障害」であることから社会にまだまだ正しく認知されていません。人として暮らす上で一番必要と言っても過言ではない言葉を伝達することが不自由なこの障害を抱えていると中々地域に出ることができません。「伝えたい気持ちを伝えられない」「人の話に耳を傾けたいのに、何を言っているのかわからない」といった状態は、日常生活に大きな影響を与えます。「言いたいことが言えない」というだけではありません。「電話がとれない」「メモができない」「困ったときに助けを求められない」ことは孤立の原因になります。また、会話でもいきちがいが生じやすくなり、家族の負担も大きくなっています。失語症自体のリハビリも十分ではなく、自分らしい生活を失ってしまいそうな本人を家族がやっと支えている状態です。</p> <p>2 その問題の改善策について</p> <p>まず地域福祉を推進する上での視点として次の2点を提案したいと思います 一つ目として支援対象を高齢者・障害者等の属性ではなく「生活のしんどさを抱えた人、支援を必要とする人」として捉えること 二つ目に高齢者や障害者をサービスを受ける人という固定的な見方をせず、その力を生かし、地域社会の担い手として捉えること 以上の2点が今後の地域福祉を推進するために重要な視点となると思われます。</p> <p>次に失語症のある方が地域であたりまえに生活する為の今後の地域福祉の施策として3つの提案があります</p> <p>①地域包括ケアシステムの推進として総合的な相談センターを各地区に置くこと ②多くの区民が参加できるように地域で活動している団体や人材を支援し区民や事業者等との共同による福祉の地域づくりを進めること ③高齢者や障害者など今までサービスを受けていた人を当事者講師としていろいろな場面でその力を生かし活躍をしてもらうこと この3点を私が抱える課題に引き寄せて具体的に考えてみます。</p> <p>①総合的な相談センターの必要について</p> <p>失語症のある方は、脳血管疾患・交通事故等が原因となります。病院でのリハビリ等においては医療でそれなりのカバーがなされています。しかし退院後の生活は長く、十分なリハビリの体制は整っていません。よって家族にその介護が担わされている場合も多くあるわけです。その生活のしんどさは、生活のいろいろな場面で表出されます。介護保険を適用されている当事者であればケアマネジャーがいます。しかし今の制度の中では、残念ながらマネジャーが失語症への対応をしてくれる介護施設・障害者総合支援法による支援・民間の団体・失語症者のための意思疎通支援制度など失語症に関わるいろいろな支援を知り尽くしているとは言えません。</p> <p>家族の日常の生活の中での大変さが、家族の病気・育児等の困難さとして現れる、又経済的困難が大きな課題となる家庭もあるでしょう。家族が当事者の病気の問題を抱え切れない、社会的支援がどういふものがあるかどこに相談していいかわからない、どんな支援が必要なのか当事者や家族も分からない。分からないまま、諦めて息を潜めてやっと生活している。今は、それぞれの分野に分かれた表面化したところでの支援しか行われていない。もしも包括的継続的なケアマネジメントを行える総合的な相談所があれば、そこに行けば生活上の困り事や悩みを語ることによって、ニーズを整理し状況に応じた支援や関係機関への引き継ぎがスムーズに行えます。このような総合的な相談所は、江東区においては保健相談所と同じ地区割で最低4箇所は必要だと思われます。このことによって江東区の人的資源としての専門職や地域における関係機関との連携がスムーズになります。地域包括ケアシステムのネットワークも充実し、本人や家族が必要な時に必要な資源を切れ目なく活用出来るようになります</p> <p>②区民や事業者等との共同による福祉の地域づくりについて</p> <p>今、地域で活動しているボランティア団体や支援団体等は多くあります。社会福祉協議会を中心として組織をされていますがより積極的にその人材を取り込むことにより福祉の地域づくりを進めること</p>

No	意見
	<p>ができると思います。失語症に関しては、東京都で既に養成が終わっている「失語症者向け意思疎通支援者」(訂正済み)の派遣事業が江東区では実施されておりません。私は、平成 30 年度に基礎コース 30 時間履修、さらに令和元年度に応用コース 30 時間の履修して終了したにもかかわらず、その技術・能力が全く生かされていません。</p> <p>このようにすでにある制度をシステム化し実施することにより人材を有効に使えることとなります。またコミュニケーション支援のために、その専門職である言語聴覚士が江東区内では活躍しているにもかかわらず、行政でその方の協力を得て有効的に使っていないことは、もったいない話だと思います。私は、失語症のある方が地域で豊かに生活できるよう「江東・失語症のある方のコミュニケーションを豊かにする会」を設立しました。また「特定非営利活動法人日本失語症協議会」の常任理事もしております。地域で活動している団体や人材は、たくさんいます。ぜひ有効に利用して区民や事業者等との共同による地域の福祉の福祉づくりを進めることが重要だと思われま。</p> <p>③今までサービスを受けていた人を当事者講師としてその力を生かし、活躍をしてもらうこと</p> <p>先に述べました東京都の失語症者向け意思疎通支援者養成講座では、40 時間の内実習の時間が 28 時間あります。そのほとんどに失語症のある方が大勢の当事者講師として参加していただき、支援技術の習得の講師となっています。また、予防と言う観点からみると学校における教育の中のいろいろな病気や障害を紹介していくことや、区民の方にも病気や障害を知ってもらうために講演や講演会やなどで当事者の方が講師として活躍していただくことは、とても有効です。さらに当事者にとってもみんなに知ってもらうことにより自分自身が社会の一員として予防事業を推進できる存在価値を持つことができると思います。</p> <p>最後に、従来の福祉制度が対象とする問題だけでなく、保健、医療、福祉等による区民の課題を対象として、区民の身近な地域において、自助努力に頼ることなく、行政(公助)・地域の活動団体・事業者・区民(共助)が協働・連携して解決していけるような地域福祉を望みます。</p>
17	<p>1. 新型コロナウイルス対策に関して 福祉部で介護サービス事業所等向けに対応マニュアルを出していますが、コロナウイルス対策は高齢者だけでなく、障がい者、子ども、生活困窮者などにも必要です。立場が弱い人が等しく守られるような対応マニュアルの作成を望みます。また、北砂ホームの集団感染では、運営法人が独自に対応していました。今後は、介護保険者である江東区が責任をもってコロナ対策の陣頭指揮をとることを希望します。</p> <p>2. ひきこもりの人の支援 本計画の説明でも例示されているようにひきこもりの人の支援は、喫緊の課題だと思います。専用の部署を立ち上げ、支援制度を作っていく必要があります。保健所や長寿サポートセンターが彼らを支援できるような制度づくりもお願いします。</p> <p>3. 住まいの支援 現在の住宅課のお部屋探しサポート事業は登録不動産業者が機械的に部屋を紹介するだけであって、福祉的な対応はまったくなされておりません。住まいは地域福祉そのものです。住宅確保要配慮者を支援するために住宅課と福祉部・障害福祉部・こども未来部・生活支援部の連携を求めます。江東区の家賃が高騰しています。空き家の活用や空き部屋の確保等、住宅政策に関して、積極的な支援を望みます。</p> <p>4. 居住支援協議会 居住支援協議会の参加メンバーに直接的に住まいの支援をしている福祉機関が参加していません。また会議を開催するだけで協議会としての提言や活動が適切にできていません。参加メンバーを増やすこと、協議会として江東区民の資する役割を果たすことを求めます。</p> <p>5. 社会的養護 保護者のいない子どもたちを支援する施設が江東区にはありません。5年後には江東区独自で児童相談所を設置する計画になっています。児童相談所の設置準備と並行して、社会的養護の機関の設置・整備を切に求めます。</p> <p>6. 地域福祉計画の策定委員 本計画の説明で縦割りの問題やみんなで計画を策定することが指摘されていながら、策定会議の委員が福祉関係者だけであるのは、不十分であると思います。民間企業の人、障がい当事者、専門職団体なども委員に加えること、区民委員の数をもっと増やすことを求めます。</p> <p>7. 支援の在り方 現在の申請主義の福祉支援ではなく、声を上げられない人に対して積極的にかかわっていくアプローチでの支援を希望します。待っている姿勢ではなく、積極的にアウトリーチを行っていく福祉支援を望みます。昨年 12 月に北砂で兄弟が餓死した事件に関して、行政の対応に問題はなかったということですが、改めて検証してみたいかと思いますが、行政の支援の在り方を見直し、新たな支援を構築する、とてもいい機会なのではないかと思えます。</p> <p>8. 福祉職員の収入のアップ 福祉職員は給与が低く、社会的地位も高いとは言えません。今後、福祉職員の担い手不足が心配される中、江東区が独自に福祉職員の収入を増加させる施策を作り上げてほしいです。</p>

No	意見
	<p>9. 福祉職員の増員 生活保護のケースワーカーが少ない、障害福祉サービスの相談支援専門員が少ないなど人員体制の不備が指摘されています。江東区は1千2百億円以上の基金を有します。それを活用して福祉職員の増員を図ってください。</p> <p>10. 江東区の行政責任を果たす 江東区の福祉事業は委託や補助金事業が多いです。基幹地域包括支援センター、基幹相談支援センターなどを設置するとしたら江東区が直営で運営してみたいかでしょうか。行政責任を明確にして江東区の福祉を統括する機関の設置を望みます。さらに福祉の分野でのスペシャリストが江東区役所でも求められます。というのも、現場を知る職員がすぐに異動してしまうようでは、福祉行政が停滞してしまうからです。よい地域福祉は実現するためにも区役所に福祉の専門職員を配置することを希望します。</p> <p>以上</p>
18	<p>わたくし共、主任ケアマネジャー達は、地域づくりの担い手として、地域で生きるということ（生き方）について考え議論いたしました。</p> <p>地域連帯感の希薄化（単独世帯や孤立化の増加／住民間・専門職間・行政との連携含）及び区民や専門職が気軽にコミュニケーションを取れる環境支援（居場所）、お互いさまを広げるためのしかけ作り、助け合いの人財育成等、地域で生きるということ、江東区にいつまでも住み続けたい、江東区で働きたいと思える街づくりについての意見を以下の様にまとめました。</p> <p>1) 災害時対応について ①災害時の環境整備や避難経路は示されているものの、避難経路に沿った実際の行動がとれるかどうか不安がある。また、初動の要介護者等対応は専門職のみで行うことは困難であり、地域住民の助け合いの意識育成が必要だと考えます。 ②避難経路の周知、地域内での避難訓練機会の充実と参加促進（しかけ含）、避難訓練等を通じた地域住民間の顔の見える関係づくりに発展させることなどが必要だと思います。</p> <p>2) ワンストップ支援体制について ①年齢や生活背景に関わらず、そもそも何に困っているのかを認識している人は少ないため、最初の相談窓口が分かりにくく（支援縦割り体制であるため）いくつもの窓口で同じ説明を繰り返す事があります。結果、初動時において適切な機関につながりにくい為に支援が遅れる不具合を感じています。更に、身寄りのない方への身元保証を誰が請け負うのか、責任所在が不明瞭である為利用したい支援が受けにくい状況にあります。 ②気軽に相談ができる窓口の創設、縦割り打破のための改革部の創設、制度の狭間をなくすための取り組み、身寄りのない人の身元保証がなくとも安心して生活できる体制づくり（緊急時・入退院時・住まい等）などを希望します。</p> <p>3) 現場支援者へのケアの充実 ①最前線で頑張っている現場（特に新型コロナ感染拡大）に対してのフォロー体制が十分とは言えず、介護職のモチベーションの維持が極めて困難になっています。 ②支援者（介護職・医療職）が働きやすい環境整備（メンタルケアを含めフォローアップの充実）が継続的に必要ですが、これらを事業所や法人の各々の判断と責任のみに頼らず、行政も一緒に考え、事業所や法人の運営が継続できる為のサポートをして頂きたい。 一例：訪問系事業所の駐車駐輪場の確保など。規範的統合のための整備支援（事業所や法人を超えた代替支援体制の整備）をお願いしたいと思います。</p>
19	<p>◆認知症；人数を見ても「認知症」が最も大きい問題。「江東区高齢者地域包括ケア計画」で既に検討されているが、「直せない」「終わらない」ので、家庭対応ー社会支援といった方策では、進行が進んだ時点で急激に介護の無理が目立ってくる。介護保険制度の収支が厳しいといっても、特に、重症段階での要介護認定を間違えると家庭崩壊に。</p> <p>また、高齢者単独世帯も世帯数の1割を超えており、情報把握と対応方法はより難しい。孤独死はセンセーショナルだが、そこまでいなくても、火災や近隣トラブル、詐欺被害など、さまざまな問題を生じる。区の協力事業者拡大や「高齢者地域見守り支援事業」の順調な稼働も期待するところだが、そもそも判定が容易ではないし、個人情報保護問題もある。保護手段も揃っていないわけではなく、虐待問題以上に、行政の手が足りなくなるのではと懸念される。区外居住の親族からの相談ルートや連動も必要になる。</p> <p>◆「地域包括ケアセンター」（介護保険法）・「保健所・保健センター」（地域保健法）・「福祉事務所」（社会福祉法）；どこに相談にいったらいいのかわかり、理解されているのだろうか。今保健所はコロナ対応で多忙といったことくらいは知られているのかわかり、不勉強で申し訳ないが、江東区には「長寿サポートセンター（地域包括支援センター）」が21カ所もあったんだといったところ。「長寿サポートセンター」は、もっとリンクを張ったり、今流のSNSなどでも、具体的情報発信を頑張ってもらわないと。高齢者はネットには弱いといっても、少なくとも家族が理解しやすいように。根拠法は、相談する住民にはどうでもいいことだし、ワンストップが理想。</p> <p>◆高齢者の社会参加～「三文安い」プロジェクト何ていかが？；コロナで余計目立っているような高齢者のひきこもり。若年層から高齢者まで、「ひきこもり支援推進事業」（厚生労働省）の時代。80代高齢者の親と引きこもり状態の50代無職の子が同居している「8050問題」まで登場している。高齢者は筋力の衰えや最近耳にするようになったフレイル、さらには認知症などが懸念される。その対策のひとつに社会参加が挙げられている。下町的近所付き合いも薄くなり、子育て世代は「近所付き合い」マニュアルを読む時代。</p> <p>高齢者に対しては、2019年5月に厚生労働省が公表した「健康寿命延伸プラン」で、「通いの場」の高齢者比参加率を20年度末までに6%とし、認知症大綱でも25年度に8%とする目標が掲げられた。事例集も公表されたが、公的制度には珍しく何でもあり。江東区は「KOTO 活き粋体操」の「とことんお元気！サークル」。また、「移動販売」にも高齢者の買物の場への定期的引っ張りだしが期待されている。一方で、労働力上も共稼ぎが不可避で、核家族には（母子家庭や父子家庭はなおさら）子育て支援もまた不可欠。そうしないと少子化も抑えられない。</p> <p>高齢者の社会参加といっても、引っ張り出すのに、子育て支援を目指したほうが、張り合いがありそう。「年寄りっ子は三文安い」そして「老いては子に従え」。ここでは「孫に従え」になるのかわかり、失</p>

No	意見
	<p>われた「大家族」の機能を地域が引き継ぐという筋建て。 「幼老型集いの場」は、区役所、福祉事務所、小学校、保育園、幼稚園、児童館、図書館、町会事務所、区民館・地区集会所、文化センター、体育館などの公的な場にとどまらず、マンション共用施設や社会貢献や営業活動としての民間施設などどこでも。 幼老の接触形態も、通学の交通指導員、学童保育やキッズクラブ、保育業務への参加といったものから、昔遊びや料理、ケーキ、お絵かき、工作、刺繍といった随時の教室だったり、逆に、子供からゲームやパソコンを高齢者が習う場でもいい。大学との連携もかなり有効なはず。高齢者側施設からというより、小学校や幼稚園、児童館など、子供向け施設から、高齢者を巻き込みイベントの仕掛けをするほうが、組み立て易いかもしれない。図書館も子供コーナーと高齢者コーナーを繋げてみたり。 といっても、イベント主催者が地域の「監視役」を過度に自認されると、それはまたそれで支障がでそうなので、多種多様な力まない仕掛けをどう作っていくか。また、その告知方法に SNS を活用しきれるか。 実際は、いうほど簡単ではないのだろう。 まあ、少なくとも、子供を騒音源と感じたり、保育園建設に反対したりするような高齢者はなくしたい。</p>
20	<p>①平常時でも弱者である障害者が、災害時、災害前後にどのようにしたらよいか、どのようなサポートが必要か。</p> <p>②参考： ○熊本災害基金第1次助成事業『発達障害者災害手帳』一般社団法人くまもとSDGs推進財団 ○『個別避難計画』自分だけでなく家族や地域の人達と作成、避難するときの枠組み、方法を具体的に計画</p> <p>同志社大学 立木茂雄教授(福祉防災学専門、支援が必要な障害者の避難について研究) ○『ケアプラン(災害時版)』を作っておく 災害と福祉を連結することを普段から行うことで推進できる。当事者が参画して計画づくりをする。声掛けをしてくれる人、相談できる人、自分の社会資源を豊かにしておく。 地域は『タイムライン』作りを通して、防災のマインドを高める。</p>
21	<p>1) 個人や家族で抱える福祉の問題について 脳卒中や事故などで言語機能に障害が起こる「失語症」は、その障害の特性から、自ら声を挙げるができないため、これまで医療保険制度と介護保険制度のはざまと高齢者福祉と介護福祉のはざまに取り残されてきている。 失語症のある方は、意思を表出することが困難であり、障害者差別や人権の侵害を被る問題があり、地域社会への参加が困難な状況にある。また、家族の介護負担及びコミュニケーションが取れない精神的負担も大きい。失語症のある方の意思を尊重し、支援をする制度を活用することが喫緊の課題であると考え。</p> <p>2) そのような問題を改善するためにどうすればいいか 地域生活支援事業の必須事業の中に失語症者向け意思疎通支援が位置づけられ、養成の修了者がいるにも関わらず江東区では派遣体制が整えられていない。江東区では手話言語の普及及び障害者の意思疎通の促進に関する条例が施行された。 失語症の意思疎通支援は(施策の推進)第7条(2)障害者の意思疎通手段の利用に資する環境整備(4)障害者の意思疎通手段による情報の発信等に該当するが条例が行政で活かされていない現状である。 失語症のある方が地域社会で自分らしく生活するために、まずは行政で問題を共有し、地域社会の繋がりが持てるよう意思疎通支援者の派遣制度を早急に整えることが誰一人取りこぼさない社会の実現の一つに必要である。</p>
22	<p>①個人・家庭で抱える福祉の課題、または、地域や江東区の福祉の問題点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉の申請主義(申請するまで便利な制度を教えてくれない) ・外国にルーツを持つ子の福祉計画がない ・情緒級がない ・障害や重病患者の家族の負担が重い ・親の横の繋がり(サポートコミュニティがわからない) <p>②その課題や問題点の改善案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの利用で申請主義を打破 江東区の公式LINEなどで、お得な制度を教えてくれるチャットbot等の設置。例えば「こういう人にはこういう制度が使える」など。 監視社会じゃないけれど、他人(お世話焼きさん)が気を配ることは重要。「こういう人がいるんだけど、どういう風な制度を申請してもらえばいいだろうか？」 ・外国にルーツを持つ家族の福祉計画/教育計画を策定するための住民基礎調査(アンケート)が早急に必要。江東区など外国人流入が多いと思われる。 安易に生活保護に頼っていいという訳ではないけれど(ルールは必要だけど)、外国語を母語とし外国にルーツを持つ方をどういう風にQOLを向上させるかは重要。彼ら彼女らも住民税を支払っている。

No	意見
	<p>外国人参政権制度に反対ならば、日本人が代理で外国人の福祉について考える必要あり（だって実質的な移民政策を日本は取り始めたんだから）。外国人と日本人との無用な対立をなくすためにも、彼ら彼女らが何を感じているのか知りたいし、江東区民に知ってもらい考えてもらう必要性。→持論だが、複数人の江東区”外国人シティマネージャー”を区長が任命し、「外国人おもてなし課」（仮）を作るのがよいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的に遅れはないけれど情緒や発達において課題を持っている子のための”情緒級”を（巡回教室ではなく）常設で設置を増やす。見過ごされがちな発達障害。大人になり、環境が変わることで、問題が露見していく。 ・家族の生き死について、判断するのが重い。会社でいうところの部長クラス（代わりに判断してくれる人）が、いない。なんでも家族に連絡が来る。呼び出しが多い。生活雑事を支えるサポートスタッフについて、助成を出す。 ・看護者の横の繋がり＝サポートコミュニティは重要。例えば同学年の子供たちはどこに住んでいるかは、保健所は知っているが、住民に教えてくれない。同様に、親の看護をまさにやっている家庭がどこにいるかは、行政には情報はあるはずだが、教えてくれない。→この区域にこういう悩みを持っている住人は何人いて、どこそこに行けば会えたり、ネットを通じて連絡取れたりする企画を行う。
23	バスや電車にベビーカー・子連れでも乗りやすい環境と雰囲気作りをお願いします。
24	出産ができる産婦人科が区内にあまり無く、どこで産むかという選択肢が少ないと思います。
25	<p>区報にて、江東区地域福祉計画策定に向けて、を拝読致しました。</p> <p>1. 福祉情報を手軽に探せない印象があります。我が家の場合、何度か困ったことがありました。渋谷区から転入してきた時、乳幼児 3 人の普通の遊び場や情報収集の場、また発達障害の疑いがあったにもかかわらずそれをどこにどう当たればよいかわからなかったこと。知的障害の診断がついた我が子の今とこれからをどう関わり育てていけばよいか、金銭面含めた今からできる準備の考え方がわからないし、心配しなければいけないことすら気付かなかったこと。今、高齢者や障害者の方へのボランティアに興味はあるが、区内の各施設やサービスの状況が把握しづらいこと。</p> <p>我が家はどの場面でも、まずは動いて区の関係部署に電話したり直接出向いたり、インターネットを通じて民間やボランティアで答えを探すことができました。問題に感じたのは、同じように困った方が周りにたくさんいたこと。困ったままの方が案外多く、都度私にわかることはお伝えしましたが、皆が同じ行動力や情報収集力ではないと、もっとアプローチしやすい環境構築の必要性を感じました。あと、実際引っ越したから、診断がついたから、ボランティア登録したから、であれば情報はより集めやすく、区の制度が充実してることもよく分かりました。逆に、その前段階、引っ越すかまだ未定、診断がつくかどうかともわからない、ボランティアに興味あるだけの段階では、上記のやり方で窓口をまわり、動くのは労力が大きすぎます。窓口がわかれば、一つ一つ当たるとなると、時間に限りがあると優先順位を付けざるを得ません。知的障害の子の療育や情報収集に奔走し障害福祉に重きをおいてる間、下の子の児童福祉に関する情報収集や子育て支援センターへ連れて行って遊ぶことは後回しにもなりました。</p> <p>2. 1.を踏まえると、より多くの人々が情報を得られるインフラの構築と、またそれを縦割りを排していくことが大切かと思えます。少し興味がある、我が子も該当する可能性があるだけで、役所を回るのは大変です。家の近くの区民館や児童館のような人が集まりやすい場所で、様々な区の福祉情報が提供され、各人の経験談やシェアしたい情報に触れられる場所があると良いと思います。</p> <p>長文、乱文になり失礼致しました。他の区の取り組みも調べ、次の意見募集の際にはより具体的な提案が出来るよう準備致します。</p>
26	<p>まず初めに、地域福祉計画策定にあたっては、従来型の発想が限界に来ているとの認識を持つことが重要です。</p> <p>江東区長期計画にある『つながり』を実現するための設計図が、地域福祉計画であるとのことですが、これは、『連携』することを意味し、つまり、自助、互助、共助、公助を基本とした社会づくりであり、みんなで創り支え合うネットワーク社会づくりであると考えます。この社会では、支える人と支えられる人のバランスが大変重要になります。</p> <p>例えば、様々な行政サービス提供では、住民に見える形で切れ目のない行政サービスを提供することが、この『つながり』を大切にすることにつながっていきます。これらの考え方を基本とて地域づくりを考えることが大切になります。すべての住民にオープンで、地域の支援ニーズの変化に応えられる小さなネットワーク、仕組みづくりが必要となります。</p> <p>そこで提案ですが、現在、江東区では、4 地区に分けられて地域コーディネーターが地区のキーマンとして活動しています。さらにこの仕組みを『つながり』が見える形にしたものとして、この地区の下に小学校区単位で（仮）地域コミュニティ協議会のような住民主体での協議体づくりを安心を支える重層的な地域概念として整備することを提案します。</p> <p>尚、地域福祉計画は、街づくりに関係していますので都市計画マスタープランとの整合性を図ることも考慮することが大切です。</p> <p>次の提案ですが、江東区の基本データとして、高齢化率 21.53%、75 歳以上 55,950 人、65 歳から 74 歳以下 56,377 人、高齢化地域別 砂町、大島、南砂、一人と夫婦世帯 33,617 世帯、成年後見申立が平成 29 年 116 件から令和元年 96 件 17%減少した。この現状と今後の成年後見制度の備えとして、専門職のみならずこの地域福祉計画の住民主体の考え方を進めるためにも市民後見人の育成と積極的な登用、過去人材の発掘を進めていただきと考えます。</p> <p>以上</p>

No	意見
27	<p>区民が住み慣れた地域で助け合いながら安心して暮らすことができる地域共生社会の実現を目指す「江東区地域福祉計画」の策定、大いに期待しています。区内での住民主体の助け合い活動の現状を踏まえ、以下、3点の意見を提出します。</p> <p>① コロナ時代の助け合い活動（コロナ禍の現状と課題） 周知のように、コロナ禍で地域での助け合い活動は深刻な影響を受けています。新型コロナウイルス感染症の終息が見えず、当面、ウィズコロナが避けられないことから、地域でのコロナ禍の現状把握と課題、具体的施策の記述が必要と思います。</p> <p>② 「3つのつながり」を作るための課題 縦割り行政の弊害を打破し、「行政内の各部署」「地域社会」「行政と地域」のそれぞれのつながりを実現することは地域共生社会実現の最大の課題、試金石になっていると思います。とくに「自助」「共助」の取り組みに「公助」（行政）がどのように関わっていくかを具体的に示すことが必要で、「地域社会のつながり」の実現には行政の果たすべき役割が大きく、現行法制度にある生活支援コーディネーター、地域福祉コーディネーターが中心的役割を担うことが期待されています。</p> <p>③ 「地域福祉計画」策定の進め方 「地域福祉計画」の策定に区民の意見をどう反映させていくかは、課題解決の施策を具体化する上でも大切な課題です。今回の意見募集を含めパブリックコメントは「意見のある人はどうぞ」という手続き上のタメにする公募になっているように感じられます。コロナ禍では大変とは思いますが、広く区民から意見を募り意見交換を行うために各地域で会合を積み重ねていくことが大切だと思います。また、地域での会合は町会長、民生委員など既存組織の枠に限定せず、地域で助け合い、見守り活動などのボランティアに取り組んでいる方々などに広く呼びかけていくことが必要と思います。 以上</p>
28	<p>私は、幼少期に大島で、向こう三軒両隣が色濃く残っていた最後の時代を過ごしていました。その後、集合住宅の増加、大規模店舗の出店、女性の社会進出など、社会やまちの構造、更にはライフスタイルが大きく変化するにつれ、地域のつながりが薄れていったことは実感しておりますし、自分自身、成人後に地域活動の運営に参加したことはありません。利便性や経済性が強く求められる昨今、この流れは誰にも止められず、一層地域の力が弱まっていくことと推察いたします。</p> <p>このような状況下では、地域の大切さをいくら唱えても、残念ながら多くの区民に響くとは思えません（無駄というわけではなく、学校教育からの啓発は必要と考えます）。また、町会や自治会に頼る時代でもなくなってしまったと思います（地域活動に尽力されている方には本当に頭が下がります）。</p> <p>そこで、要望3点です。 まず、地域の力が停滞してしまった分については、当面、区が主体的に補完し、コストがかかるのであればしっかりと説明責任を果たしながら、区民生活を支えていただきたいと思います。 次に、無償の精神や使命感で地域人材を活用していくのも限界があると耳にしたことがあり、多少のインセンティブをご検討いただけないでしょうか。 最後に、地域のつながり自体はなくなったわけではなく、SNSの普及はいうまでもありません。新たな様々なツールを駆使しながら、つながりの維持向上に資する取り組みを検討していただきたいと思います。</p> <p>江東区民、確かに普段は地域に無関心であるかもしれませんが、大地震や水害など自分の身に降りかかる大きなきっかけがあれば、多くの方が私利私欲を捨てて助け合っていく精神を持っていると思いますし、私はそのつもりです。コロナ禍で一層社会変革が進んでいく空気が醸成されています。計画策定にあたりましては、新しい時代の地域の在り方について、議論を深めていただき、実効的な計画となりますよう期待しております。</p>
29	<p>① 地域や江東区の福祉の問題点</p> <p>こども支援の観点からこども食堂を2016年より開催しています。どんな環境下でも、どんな家庭状況であってもどの子ども達もが安心して健やかに育つことができるように子どもに関わる専門職も地域の人達も誰も見守れる地域、江東区であって欲しいと願っています。</p> <p>こども食堂の開催を通して家庭に課題のある子ども達との関わりがありますが、要保護児童として認識されている支援の対象となっている子どもや反対に支援の対象まではいかないが見守りが必要だったり家庭への支援が必要な子ども達もいます。</p> <p>これらの子ども達が適切な支援を得るにはこども家庭支援課だけでなくそのこどもを取り巻く課題に併せた分野の支援を求めたとき、生活困窮支援であったり障害者支援であったり教育委員会であったり行政内の様々な担当課とのつながりが必要になります。子ども達を支援するにあたりそのこどもの背景を知りたくてもなかなか得られないため全体像が掴めず出来るかもしれない支援も届けられないこともあります。</p> <p>世間に認知されつつあるとはいえこども食堂の活動への理解はまだまだ浅く、行政内の各分野の担当課につなげようとしていたり支援を求めても個人情報の扱いとして繋がらないことも多くあります。</p> <p>こども食堂の活動でひとり親世帯への食材支援などを行うことをひとり親世帯へ周知するための案内を手当て給付を行なっている係からのお知らせなどと一緒に同封を願いましたがこれも個人情報の取り扱いを理由に実現しませんでした。</p> <p>また、保護受給家庭は「適切な資金を受給しているためこども食堂の活用は不要」との見解でこども食堂の周知はしないというのが保護課の見解でした。保護受給家庭の中にはこどもの分の食費を他の娯楽に不適切に使用してしまう保護者がいたり、傷病などで食事準備ができない保護者もあり、子ども達にとってこども食堂での食事や居場所としての活用を過小評価されているように感じています。</p>

No	意見
	<p>こども食堂を子どもに関わる行政がうまく活用していれば地域でのこどもの見守りがもっと広がると思いますが、本当の意味でのこども食堂とは何か？ということが理解されていないことも壁が取り除かれない理由の1つでもあります。</p> <p>② その課題や問題点の改善案について</p> <p>都内では既に「こどもの育ちを支援する」ため地域団体(こども食堂や学習支援団体、不登校などのフリースクール、家庭支援を行う団体など)と行政、社協などがネットワークを構築して情報共有してこども達の見守りを行なう区市町村があります。要対協の枠内にこのネットワークが入り教育委員会ははじめ学校関係や保護課なども含まれ地域団体も交えてどうやって地域でこども達を支え見守るかが話し合われています。</p> <p>また、他の区市町村ではひとり親世帯へ給付案内などお知らせを郵送する際に活用できる資源としてこども食堂の案内も同封されているそうです。</p> <p>こども食堂やこどもの居場所を充分理解されている方は、例えばこども支援のワーカーやSSWなどがこども食堂で担当のこども達と出会ったり様子を確認したりしています。民生児童委員が各地域のこどもの見守りを依頼された際にこども食堂で該当するこどもと出会い顔見知りになってつながりを作ることもあります。</p> <p>区内の機関がこども食堂を正しく理解してネットワークの中でそれぞれができることを持ち寄れば1つで全てを抱え込まずに多くの手の中でこども達が育まれるのではと思っています。</p> <p>残念ながら現状「できない」ことばかり話される機関が多いように感じられますが今後は子どもに関わる機関、団体ができないかもしれないことにも「これなら出来る」を持ち寄れるような、話し合えるようなネットワークがあると良いと願っています。</p>
30	<p>●頑固な考えの高齢者(身体は比較的健康で歩ける)がいる家庭が相談できたり、手を貸してもらえたりできる窓口が欲しい。なぜなら病院に行つて欲しいのに頑なに拒まれ、しまいには家族の空気が悪くなる。</p> <p>●高齢者がカラダを動かしやすく、運動が苦手でも取り組み易い教室を提供して欲しい。ポイント制にしてポイントが溜まったら商品や商品券に交換できるとか。</p>
31	<p>高齢の家族、障害を持つ家族の介護等している人へのサポートは何か出来ないでしょうか？</p> <p>子育て中のママのサポート、居場所、サークルは増えていると感じます。子連れで外出もしやすくなりました。若いママはSNSなど情報収集も上手です。</p> <p>一方で高齢者、老老介護をしている人、障害児を持つ親等の居場所がないように感じます。</p> <p>例えば障害者フェスタなどで介護者が自分のために何かする場所。カフェでも、裁縫でも、ヨガでもできる場所があればいいなど。この場合、障害者とは別空間で。</p> <p>また高齢者だけが集まる場ではなく、(高齢者ばかりで集められるのは気が滅入るそうです)高齢者が行きやすい空間作り。その場所の情報収集が出来ないので情報の発信。</p> <p>介護している人が、週に一度でも距離を置いて、リフレッシュできる場所。これも情報収集が出来ないので情報発信。</p> <p>情報収集が出来ないと言うのは、SNSを使いこなせない、自分の居場所を考える心の余裕が無いなど考えられます。</p> <p>区報は見ている人が多いです。文字を大きく見やすくして欲しい。</p> <p>コロナ禍、家に引きこもってしまう事が怖いです。何か良い方法があればと思います。</p>
32	<p>・江東区地域福祉計画(豊洲近辺)</p> <p>私は新潟県に生まれ大学は関東でその後就職し全国を転勤し2020年に豊洲に引越してきました。その頃豊洲の人口は7000人弱で、わずか20年で5倍の人口増で驚いていますが、新潟の小さな村でもあちこちに神社やお寺があり、神社では毎年お祭りや花火大会、盆踊り等があり、それを仕切っていたのは地元の長老たちや青年達でした。</p> <p>近所の人達は皆顔なじみで困った事があれば助け合い地域の結びつきは現在住んでいる豊洲とは比べる事は出来ません。マンションやオフィスビルが多いのでやむを得ないと思いますが、区で神社を誘致されてはいかがでしょうか？神社でなくても地域の住民が集まりやすいコミュニティー広場が必要と思います。</p> <p>また豊洲小学校では盆踊り・お祭りが開催されましたが、この様な催しをもっと増やす事が必要かと思えます。まだまだ歴史が少ない土地なので仕方がありませんがふるさとを感じる事の出来る土地になればと思います。場所としては昭和大学病院と東雲水門の間の土地が最適かと思えます。</p> <p>よろしくご検討お願いいたします。</p>
33	<p>区内にて、障害児通所支援事業(放課後等デイサービス事業)の施設運営をしております。</p> <p>「放課後等デイサービスの施設数を、条件付きで増やす方向性」をご検討いただきたく思います。</p> <p>例年、江東区こども発達センターさん主催のもと未就学児の保護者向けに、放課後等デイサービスの説明会を開催されています。(今年はコロナ禍の影響で未開催)</p> <p>説明会には、約100名強の保護者の方がいらっしゃいます。保護者のほとんどは、就学後の児童の行き先の確保すべく情報収集のために、ご参加されている方々と推察します。</p> <p>説明会に参加する多くの放課後等デイサービスの事業所さんから、次年度の空き状況について発表する場面がありますが、どの事業所の回答も保護者の期待に応えられないという場面が毎年あります。</p> <p>現状が定員いっぱいのため、次年度も空き状況が未定、もしくは、空きが生じて、1、2名程度の募集。平日毎日の利用が確保できるか、お約束できないとの回答が大多数で、会場内は落胆の声が広がるといったシーンが毎年、見受けられます。</p> <p>現在区内には、37の放課後等デイサービスの事業所がありますが、まだ充足しているとはいえません。江戸川区や墨田区といった他区からも利用希望が入っている状況で、ご利用希望の保護者の方の中には、就労の継続に対して不安を抱える方もいらっしゃいます。</p> <p>一方で、事業所運営者側としても、地域ニーズに応えるべく努力をしているものの、指定権限を持つ東京都の方からは、定員厳守の要請があるため板挟みの状況での運営となっております。</p>

No	意見
	<p>また、施設運営についても、質的担保が必要であると考えます。事業所の中には、営利を主目的としているためか軽度の発達障害児童の受け入れを中心とした事業所もあると聞きます。児童相談所や子ども家庭支援センターと連携し、被虐待児の受け入れも行っておりますが、被虐待のご家庭のほとんどは、発達障害に関するとの話を児童相談所のご担当者からもうかがいました。本来、支援を受ける必要性のあるべき家庭のための福祉事業であるべきと考えますので、開所にあたっては質的担保を確保するためにも条件を付すことも必要かと思われます。以上、放課後等デイサービスの施設数について、条件付きで増やす方向性へのご検討をよろしくお願いいたします。</p>
34	<p>下記3点の意見を提案させていただきます。</p> <p>【既存活動団体の可視化について】</p> <p>①現在区内に存在する互助（地域活動・ボランティア等）について、集約しているがない為、下記の機会損失が生じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■区民が地域活動に参加・参画するための『自分に合った居場所と役割』を選択する機会。 ■個々の団体が連携を図り、より発展的な活動を行うための機会。 ■地域企業が各社に合った地域活動をバックアップする機会（マッチング）。 ■地域で不足している資源や地域の洗い出しの機会（資源の過不足の把握機会）。 <p>②地域で取り組まれている活動団体の洗い出し・可視化とその周知。 同時に、活動を団体構成員の善意だけに委ねるのではなく、行政として後方支援（活動信頼の担保、活動資金調達の後方支援、活動場所確保等）を行い、活動団体や個人が安心して地域福祉に貢献できる土壌をつくるのが、持続可能な活動団体の発展につながると思われる。</p> <p>【互助担い手の育成】</p> <p>①そもそも一般区民が助け合いや支え合いを学ぶ場がない。また、既存活動団体の担い手が減少している。</p> <p>②区民を対象に、地域や助け合いについて学べる場・活動団体のリーダー向けの知識とスキルを学べる場が必要（地域の資源活用や相談援助技術を学べる場）。</p> <p>【活動機会の確保】</p> <p>①■活動意欲のある既存団体が十分な活動を行う場所の確保が困難な状況があり、活動に制限がかかっている現状がある。 ■地域の住民同士が気軽に集える場がない為、顔の見える関係づくりが構築しにくい状況がある。</p> <p>②長寿サポートの拠点数くらいの数の「地域の集いの場」を設ける。</p>
35	<p>①問題点☆福祉園や作業所を地域の皆さんがあまり知らない</p> <p>②知っていただくため、区報やことみせで紹介したり、店舗を商店街やショッピングセンターに置いたり、 るーくるのキッチンカーや移動式販売（おしゃれなの）を作って、公園やお祭りに出店して、 もっと地域になじんでいったら、より理解していただけたらと思います。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
36	<p>①個人や家庭で抱える福祉の課題、または、地域や区全体の福祉の問題点について</p> <p>高齢者の福祉は厚生労働省、小学校・中学校の福祉は文部科学省の所管になっている。よってお互いの連携はとりにくい。 いまの江東区の公教育（区立の小学校・中学校）は事実上、教育というよりは福祉に近い状態になっている。通常の授業ではTA（ティーチングアシスタント）が必要不可欠になり、また小学生の放課後預かり（学童）も必要不可欠になっている。</p> <p>さらにLD、ADHD、自閉症の児童生徒が教室で騒ぎを起こし、学級崩壊が起きやすく、授業進行の妨げになっている。加えて新型コロナウイルスによる緊急事態宣言で、子供の学力差は、かつてないほどに広がっている。不登校も多くなることはあっても、減る様子はない。</p> <p>これらの問題を学校の先生、教育委員会、ひいては文部科学省だけにまかせるのは、もはや限界と考える。むしろ公教育も福祉の一部、と割り切って考えて対応したほうが、今の現実（現場）にあった対応がとれるのではないだろうか。</p> <p>②その課題や問題点の改善案について</p> <p>これら上記の問題を解決するもっとも有効な方法は、子どもの福祉と高齢者の福祉を一体化させることである。学校の問題と高齢者の問題をあつかう役所のそれぞれの部署を一体化し、同じ問題としてあ</p>

No	意見
	<p>つかうのだ。</p> <p>子どもも高齢者も「生産年齢人口」でないことは、共通している。おなじ生産年齢でない者同士をひとまとめにして扱い、お互い連携がとれるようにするのだ。</p> <p>交流を深めるのは役所の教育部門と福祉部門だけではなく、児童生徒と高齢者の交流も深めるようにする。</p> <p>児童生徒は高齢者と触れ合うことで世の中の多様性を学べるし、高齢者は児童生徒の面倒を見ることで社会からの孤立防止になる。痴呆予防にもなるだろう。</p> <p>高齢者は児童生徒の面倒を見ることで、学校の先生の助けにもなり、児童生徒が高齢者の介護をすることで、ヘルパーさんの助けにもなる。高齢者福祉施設と小中学校を、ひとつの敷地内に置けば、より連携が取れるだろう。</p> <p>こうした施策を取るのに国の法律が邪魔をしているのであれば、地元の議員さんに頼んで法律を変えてもらう。場合によっては省庁の再編（旧文部省と旧厚生省の統合）まで必要になるかもしれない。</p> <p>また教育を福祉の一部と割り切ると同様に、福祉も教育の一部と割り切って考えるのもよいだろう。高齢者施設をひとつの学校と考え、高齢者も児童生徒を通じて、学ぶ意欲を持ってもらうのだ。</p> <p>冗談めいて聞こえるだろうが、江東区独自で区立の小中高一貫教育学校（高は高校という意味ではなくて、高齢者という意味）をつくるのも、よいかもしれない。</p>
37	<p>個人・家庭で抱える福祉の課題、または、地域や江東区の福祉の問題点</p> <p>私は民生児童委員になり10年になります。大した活動をした訳でもありませんが思う事は選考の仕方を改善しなければなりません。町会役員だった私は前任者が民生児童委員を退任しまして町会長の推薦でした。公募を勧めます。以前相談者の方に担当地区の民生児童委員を紹介したところ近所なので個人情報を知られたくないとの事でした。多くの民生児童委員は地域の事をよく知っています。推薦もされがちですが問題もありました。</p> <p>虐待・家庭内暴力・閉じこもり・ご近所トラブル・孤立・孤独死など起こる度に福祉事務所、児童相談所、教育委員会は頭を下げるばかり。町会自治会は防犯・防災・害虫ネズミ駆除・募金などが主な活動で福祉関係に力を入れている町会自治会はあまり見かけません。事件や事故はご近所からの通報が多いと思います。</p> <p>コロナ禍そして希薄なご近所付き合いの今、私達は新しい生活を模索しています。ITインフラを勧めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 簡単操作のスマホを高齢者世帯に1台。安否確認サービス ● リモートでの健康体操や特殊詐欺犯罪等への啓発に、安心安全サービス ● 毎日の血圧記録をかかりつけの医師や保健所や長寿サポートセンターへ送信する健康チェック、健康寿命を伸ばして医療費・介護費用を減らす、将来リモート診療につなげる。 ● 送信の無い方の場合には近くの民生児童委員か長寿サポートセンターへ連絡する。あるいは町会自治会に見守り連絡網を作りご近所の担当者との連携を取る地域力upである。 <p>その課題や問題点の改善案について（高齢者・障害者）</p> <p>お金で解決できる事はあるかもしれませんが。しかし家族や親類縁者と疎遠（高齢者調査より）になり孤立・孤独な日常を送っている方が多く見受けられます。</p> <p>老人クラブや福祉会館へ行ってみたらと、勧めてみても当人の事は何も分かっていない、精神的に満ち足りていないのです。健常者であれば社会で必要とされる人間でありたいはず。カラオケも良い将棋良いでしょう。しかし多くの方は「明日何する」が無い、一日中テレビを見て過ごしています。</p> <p>超高齢社会の日本は豊富なマンパワーがあります。社会貢献はどうですか。人生経験の豊富な皆さん社会に出て自分（能力）を活かしましょう。お料理の得意な方、裁縫の好きな方、楽器の得意な方、草花に知識のある方、元大工さん、元電気屋さんお話し（語り部）の好きな人、なにかしらあるはずです。障害者として健常者とのスポーツ交流・自立支援施設への見学交流など社会とのつながりを切ってはなりません。区役所の2階に売店があります、施設で作ったパンを配達している姿を見かけますが販売もしていますか？ 社会とつながるステージを作り生きがい作りを提案します。</p> <p>以上</p> <p>余談</p> <p>私は40代でワープロを覚え後にPCを覚えました。以来文書作成の依頼や会計を任されています勿論ボランティアです。ITも自信あります。社会との繋がりにはPCにあり。人生百年時代、豊富な経験知識をお持ちの皆さんに地域福祉の先駆けを担ってもらい、高齢化社会を楽しく生き抜いていただきたいと思います。</p>
38	<p>①コミュニケーション条例が成立したものの、具体的な施策の検討にはいたってないと聞いている。</p> <p>区報にコミュニケーション障害についての連載が開始されたり、ユニバーサルデザイン窓口研修や、コミュニケーションノートの作成など、行政なり取り組んでいることは理解しているが、「コミュニケーション障害」の全体像や本質をつかめていないのではないかと強く感じる。</p> <p>医療・介護の現場でコミュニケーション障害を専門としているのは「言語聴覚士（ST）」であり、私自身STとして常々地域に貢献したいと考えているが、臨床家の意見を聞くことなく、事業を進めていることが残念でならない。</p> <p>コミュニケーション障害のある人は、情報の取得が難しく、自身の訴えを言葉にすることが難しいため、今まで長らく公的サービスの網目から抜け落ちてきている。</p> <p>例えば「失語症」にいたっては、障害者手帳の対象にもなりづらく、介護保険の区分にも影響しないため、失語症のある方をサポートするのは主に「家族」であり、その家族を支えているのも個人のSTや有志の団体（例えば「江東 失語症友の会 すずめの会」など）である。（実際にはその失語症を対象とした初めての公的サービス「失語症者向け意思疎通支援者」の養成はすでに始まっているが、市区町村で行うべき派遣のシステムは江東区ではまだ手をつけられていない状態である。）</p> <p>例として、失語症について挙げさせていただいたが、失語症だけに限らず、コミュニケーション障害のある方にとって、少しでも暮らしやすい地域になるよう、コミュニケーション条例のもと、本当に必要とされる、末永い支援につながる施策を望む。</p>

No	意見
	<p>②コミュニケーション障害をとらえるのは非常に難しいため、担当の職員の方々には今まで以上に勉強していただきたい。そのためには、コミュニケーションを専門としている言語聴覚士をぜひ、活用してもらいたい。</p> <p>また、具体的な施策の手始めとして、上述した「失語症者向け意思疎通支援者」の派遣のシステム確立を求める。</p>
39	<p>①②各対象毎(高齢者、障害者、子どもがいる世帯)の非常、災害時の対策、避難方法、相談先等がわかるマニュアル等の作成、周知。</p> <p>各対象及び区民、就業者に対して、非常、災害時の各医療機関(かかりつけ医)における対応、体制、行政との連携についての周知。</p> <p>災害拠点病院、災害拠点連携病院、災害医療支援病院の一覧、マップの作成、各病院毎の周知。</p> <p>各対象者及び区民、就業者が利用する施設、機関毎の非常、災害時の対応、体制、対策についての周知が必要と感じます。</p> <p>外国人の方々へも同じように用意、周知されますように。</p>
40	<p>公園(ベンチがある場所)にゴミ箱を設置して欲しいです。子供と歩いていると、ベンチがある場所にゴミ(弁当ガラや空き缶)が落ちているのが散見されます。勿論、捨てる人が悪いのは言うまでもないですが。いままではレジ袋に入れて放置されていることが多かったのですが、最近はむき出しのままであることも多く、見つけたとしても持って帰るのも躊躇われます。せめてその場にゴミ箱あればどうにかできるので設置をお願いします。</p>
41	<p>①各対象毎(高齢者、障害者、子ども等)の人数について定期的に周知され、区民の意識が高まると良い。</p> <p>②毎月公表されている「世帯と人口を町丁番・男女別にした表」の内容に加えてはどうか。</p>
42	<p>73歳の私は、知的障害(愛の手帳2度)と身体障害(3級)がある妹の世話をしており、常に、私が病気などで倒れるわけにはいかない、という緊張と不安を抱えながら生活しています。</p> <p>現在妹は、通所施設の生活介護サービスと、グループホームにおける共同生活支援の障害福祉サービスを受けていますが、後者は3年間の期間限定なので、あと数か月で期限を迎えます。</p> <p>せっかく慣れ親しんだ施設ですが、利用期間中に65歳を超えたために、期限後は短期入所も緊急一時保護も利用することができなくなります。制度別の縦割り問題の一例だと思います。</p> <p>先日、民間のグループホームが、利用者が生き生きと暮らせるようにと、駄菓子屋を開いて、認知症のお年寄りが地域の子供たちと楽しそうに交流している様子がTV報道されていました。</p> <p>このような、地域に暮らす人々が気軽に関わって交流できる工夫が、行政としても展開することができたら、児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉が同時に実現できて、江東区に温かくてやさしい風が吹くのではないのでしょうか。微力ながら私もお手伝いをしたいと、強く思いました。</p> <p>「江東区地域福祉計画」の策定に期待いたします。</p>
43	<p>①②国が来年度中に耳が不自由な人がインターネットのテレビ電話による手話通訳等を通じて電話できるようにする「電話リレーサービス」(24時間、365日、緊急通報の利用も可能)を開始するとのこと。</p> <p>活用すると共に、手話通訳者の育成、認知度向上を目指してはどうか。</p> <p>①②各区施設における耳が不自由な人へのメール、FAX、手話等の対応はどのようにされ、どの位利用されているか。把握され、各区施設が統一して対応、周知、利用促進されるとよいと感じます。</p>
44	<p>江東区地域福祉計画策定に向けて</p> <p>亀戸に生まれ育ち現在も家族4人で亀戸に住んでいます。長男が25歳で自閉症です。今まで、いろいろな人に助けていただき、その恩送りをしたい気持ちと、障害者の親が必ず心配している親亡き後の事を考えた時、さまざまな問題があり安心して暮らすことができないと考え、意見を投稿させていただきました。</p> <p>現在、障害者の親が高齢で障害者本人も50歳を過ぎたいわゆる8050問題にあたるご家族の支援は厚意ある人がしています。これでは支援者に負担をしいているのと、支援される人にも十分なケアが出来ません。また、障害を持つ子供の世話と保護者の親の介護とのダブルケアなどの、障害者を抱える家族は普通のような問題も抱えているケースが多くあります。そのような、制度でカバーできない狭間の問題や複雑な問題は窓口が分かれていて、別々に相談しなければいけません。</p> <p>地域を見渡すと障害者だけではなく、様々な問題を抱えて困っている人がいます。「地域福祉計画」が分野別計画を束ねるようなもので、これが上手く機能すれば、そういった問題を解決でき地域共生社会の実現に向かうと思います。</p> <p>しかし、現在も社会福祉協議会をはじめ、福祉に関わる事業所や支援団体などでいろいろな活動していますが、なかなか浸透していません。これを地域福祉計画策定によって真に一人も取り残すことのない施策にしないといけない。そこで私はそのような問題を解決する案として防災をとおして弱者を見守る組織作りを提案したいです。</p> <p>いま、コロナウイルスが社会生活を脅かしていることもありますが、去年は台風19号襲来時に荒川堤防決壊の危機が迫りました。江東区北部はゼロメートル地帯で、堤防決壊で3m～5mの浸水が想定されています。ここ数年、災害の規模は大きくなっていて、いつ起こってもおかしくありません。おそらく甚大な被害になるでしょう。しかし、区民は防災の意識は未だ高くはありません。</p> <p>まずは自分の命は自分で守る「自助」が大切です。住まいの耐震検査や家具の固定や、ライフラインが復旧するまでの3日以上での備蓄など、防災の為に全ての区民が対応してほしい。しかし日常生活に追われ面倒で十分に出来ていない人が殆どです。そこで「見守り支援隊」を結成し、まずは3日間の備蓄を実行できるようにアドバイスを始め(自助)、災害弱者を助けていきたい(共助)と考えています。行政にはその「見守り支援隊」の活動の支援をお願いしたいと考えています(公助)。</p> <p>まずは、縦割り行政をなくすこと。例えば管内閣でのIT庁が全ての省庁の横串をさすように、防災課を作ることでさまざまな弱者問題に対して最適に対応できるのではないかと思います。</p> <p>また、支援をしたら何ポイントが付与でき、貯めたポイントで自分のための支援に利用できる、または商店街でお買い物ができるなどはどうでしょうか。無償のボランティアでは厚意ある人しか集まらず浸透しづらい。効果として支援側にもウインがあることは重要だと考えています。</p> <p>「見守り支援隊」を結成することにより、支援の輪が広がり、防災意識が高まる。そして多くの命を守ることができる。その体制作りをぜひともしたいと思っております。ご相談させてください。よろしくお願いたします。以上</p>

No	意見
45	<p>①個人・家庭で抱える福祉の課題、または、地域や江東区の福祉の問題点について ②その課題や問題点の改善案について</p> <p>①障がいを持った方が、災害時に避難しにくい状況。理由としては、地域に知り合いがいない、障がいを理解してもらえず、迷惑がられるのではとってしまう。 ②障がいによって、援助の仕方が違うので、江東区のヘルプカードに障がい別に色をつけてみてはどうかと思います。例えば、自閉症はブルー、ダウン症はイエローのように。その色の意味や、援助の仕方がわかるよう、事前に広報などで区民に知ってもらいと良いと思います。地域の方やボランティア向けに、援助の仕方講座もひらいて、理解する人が一人でも多ければ、みんな安心して避難できると思います。</p> <p>①障がいのある方も、親元を離れて地域で暮らしていけるということがあまり知られていない。 ②道草という自閉症や知的障がいの方がヘルパーと暮らしている映画があるので、区内で上映している方知ってほしいなと思います。ヘルパーも増やしていけるよう対策してほしいなと思います。</p> <p>☆障害の害の字がいつまでも江東区は害のままなので、変えてほしいです。いろんな区の区報を読むのですが、結構みなさん変えてきています。以前、提案したことありまして却下されましたが、私たちの子は害ではないので、小さなことですが変えていただきたいなと思います。その小さなことが、区民も、あつ認識が変わってきたなと思うと思います。</p>

以上